

別記様式第3号の9（第10条の2関係）

（第1面）

コンクリート工事監理状況報告書

東 広 島 市 長
 （ 建 築 主 事 ）
 （ 建 築 副 主 事 ） 様
 指定確認検査機関

工事監理者 住 所
 氏 名
 () 建築士 () 登録 第 号
 () 建築士事務所 () 知事登録第 号
 電話番号 () -

次のとおり、工事監理の状況を報告します。
 なお、この報告書の記載事項は、事実と相違ありません。

項目	報 告 内 容			
	報 告 事 項	照合を行っ た設計図書	確認の方法	確認の 結 果
1 材料	(1) 共通 ア セメントの規格及び種類 イ 骨材の規格、種類、吸水率、アルカリ シリカ反応、塩化物量及び粗骨材の最大 寸法 ウ 水の規格 エ 混和する材料の規格及び種類 オ 型枠の種類及び形状		A・C	
	(1) 型枠の加工及び組立て ア 主要墨、部材の断面及び建入れ イ 目地及び構造スリットの位置及び形状 ウ 埋め込み金物 建具、アンカーボルト、インサート及 びスリーブ エ セパレータの種類及び間隔		A・B・C	
2 施工	(2) コンクリートの打込み			
	ア コンクリートの受入れ 指定のコンクリートであることの確認		A・C	
	イ 打込み (ア) 打込み箇所の清掃、型枠への散水、 落下の高さ、打込みの順序及び打継ぎ 時間の間隔 (イ) 締固め (ウ) 打継ぎ面の処理 仕切り型枠、止水処理、清掃及びレ イタンスの除去		A・C	
	ウ 養生 (ア) 養生温度、初期養生、寒冷期の保温 及び暑中の養生 (イ) コンクリート打設中の鉄筋の保護の 養生		A・C	

(第2面)

項目	報 告 内 容			
	報 告 事 項	照合を行っ た設計図書	確認の方法	確認の 結 果
2 施工	エ 打込み後におけるコンクリートの打上り状態 (ア) 型枠及び支柱の存置期間 (イ) 部材の断面の寸法、平たんさ、部材の位置、開口部の位置及び目地の位置 (ウ) ひび割れ、たわみ、じゃんか、空洞、コールドジョイント等の欠陥		A・B・C	
3 試験	(1) フレッシュコンクリート ア 種類、運搬時間、スランプ、フロー、空気量、塩化物量及びコンクリートの温度 イ テストピースの採取		A・C	
	(2) 構造体コンクリート強度試験 圧縮強度及び管理材齢		A・C	

注 1 この様式は、建築基準法施行規則別記第19号様式による完了検査申請書又は建築基準法施行規則別記第26号様式による中間検査申請書の第4面工事監理の状況の表主要構造部及び主要構造部以外の構造耐力上主要な部分に用いる材料（接合材料を含む。）の種類、品質、形状及び寸法の項及び主要構造部及び主要構造部以外の構造耐力上主要な部分に用いる材料の接合状況、接合部分の形状等の項に記載すべき事項を含む報告書とします。

2 完了検査申請書にこの報告書を添付する場合は、特定工程に係る建築物にあっては、直前の中間検査までの工事監理の状況については、記載しないでください。

3 具体的な確認の方法は、工事監理について国土交通省が作成したガイドライン等を参照してください。

4 該当がない項目については、記載は不要です。

5 「照合を行った設計図書」の欄は、建築基準法施行規則第1条の3に掲げる図書及び書類のうち、工事監理において照合に用いたものを記載してください。

6 「確認の方法」の欄は、次に掲げる記号のうち、該当するものを○で囲んでください。なお、Cに該当する場合は、確認に用いた具体的な書類を記載することとし、その書類は、検査の際に確認する必要があるため、現場に備え置いてください。

A 目視又は試験による立会確認

B 計測等による立会確認

C 自主検査記録、施工記録、測定記録、材料搬入報告書、工事写真、資格証明書、施工図、試験成績書等による確認

7 「確認の結果」の欄は、「適」又は「不適」のいずれかを記載することとし、「不適」を記載する場合には、建築主に対して行った報告の内容も併せて記載してください。なお、工事施工者が注意に従わなかった場合は、「不適」を記載してください。

8 市長又は建築主事若しくは建築副主事から建築基準法第12条第5項の規定による工事監理状況報告書（別記様式第3号）の提出の求めがあったときは、この報告書の添付及び検査の際の書類の備置きは要しません。

9 不用の文字は、消してください。